

## 不審者を想定した避難訓練

～ 6月11日(金)に実施 ～



2年生プレイルーム付近で発見された不審者に対して、連絡を受けた職員がさすまた等を持って速やかに対応しました。警察署の方には、その場で不審者の対処の仕方について、職員に指導をいただきました。

児童はその間に校庭に避難し、安全を確保しました。

千曲警察署の方からの指導



しゃべらず、友達を推さないで避難できましたか？

### 【学校長の講評】

今日は、みんなに危害を加える人が学校に入ってきたときの訓練でした。不審者が入ったクラスは大変だったと思いますが、とてもよくできました。

本当は、みんなを守ってくれる人たちがほとんどで、危害を加えようとする人は、ほんのわずかです。みなさんは、守ってくれる人をたくさんにする努力をしましょう。今、学校には、工事をしてくれる人がたくさんいます。あいさつをしていますか？ あの方たちも、もしものときには、みんなを助けてくれるはず。あいさつをしっかりと、仲良くなりましょう。

不審者は、学校だけでなく、行き帰りの道や遊んでいる公園にも現れるかもしれません。周りには、助けてくれる大人がいるはず。それは、いつも顔を見ているおじさん、おばさんです。その方にも、普段からあいさつをしましょう。玄関先に出て、見守ってくれている方々もいます。わたしを、ぼくを守ってくれる大人を増やすための行動＝あいさつをしっかりとするようにしてください。

本日の訓練が、学校で使われないで済むことを願っています。普段から、先生の言うことをしっかりと聴き、指示にしたがってきちんと行動できるようにしておきましょう。

**登下校の安全に課題あり！！** 児童の歩行マナーについて、地域の方々からも心配の声が寄せられています。学校では、次のようなことを確認しました。学校職員が現地に出て、指導を行っています。

- 1 ふざけて、歩道から車道へ出ない。
- 2 歩道のないせまい道は、1列で歩く。
- 3 止まっている車にさわらない。
- 4 踏切、信号待ちで広がらない。

**ご家庭でも見守りをお願いします！**

玄関先に出てお子さんを見送っていただき、そのとき通りかかる児童にも注意を呼びかけてください。

「テストの点はどのくらいだったか」「何々がどれだけできるか」などと、友達や兄弟姉妹との比較をすることはありませんか？

親の期待だけから子どもを評価することは、子どもの成長にプラスにならないことが多いようです。できないことを責められると、自信がなくなり、やる気もわいてきません。また、いつも順位や勝ち負けばかりを気にしていると、人を思いやる心も育ちにくくなります。



### ほかの子どもとのちがいを認めること



発達に偏りがあると、知的な遅れはなくても、「特定の教科だけできない」「運動が苦手」「手先が不器用」といった課題もでてきます。がんばっているのにできない苦しさを理解せず、「しっかりやらないから、できないんだ」「もっと、がんばりなさい」といった言葉だけを投げかけていないでしょうか。

発達障害のあるなしにかかわらず、だれもがもっとできるようになりたいと願っています。しかし、思うようにいかないから、悩むのです。

他の子どもとの違いこそ、この子の個性となるところです。だれでも顔が違うように、**みんなちがってみんないい**のです。

かけっこをすれば、必ず一等もあれば、ビリもいる。不得意な分野にばかり目を向けるのではなく、**得意な分野を伸ばす**ように心がけることです。

得意な分野が伸びてくると、やればできるという気持ちが育ち、本人の自信になります。このことによって、不得意な分野をカバーすることになり、自立につながるのです。

目標や課題を「ちょっとがんばればできるところ」に設定することも大切です。いきなりすべてが成し遂げられればこんな楽なことはありませんが、高すぎる目標では、途中であきらめてしまいます。

目標に向けて、**小さな一步一步の積み重ね**をしていきましょう。

#### わたしと小鳥とすずと



わたしが両手をひろげても、  
お空はちっともとべないが、  
とべる小鳥はわたしのよう  
地面(じべた)をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、  
きれいな音はでないけど、  
あの鳴るすずはわたしのよう  
たくさんのうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、  
みんなちがって、みんないい。

金子みすゞ [1903-1929] の詩

